

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873600369
法人名	株式会社 むらかみ
事業所名	グループホーム やまと
所在地	愛媛県大洲市長浜町下須戒13番地8
自己評価作成日	平成28年9月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年10月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

私達職員一同は理念である「明るく、楽しく、穏やかに」を一人ひとりが心掛け、利用者様に家庭的な生活を送って頂けるよう努めています。それと同時に安全で安心な生活を送って頂けるよう、積極的に外部研修などの参加にてスキルアップに励んでいます。その他に管理者を始め、地域との繋がりにも力を入れており、地域の方々の協力を得ながら連携を保つことで地域行事の参加を増やせることが出来ています。そんな生活の中で1番大事な看取りについても力を入れており、主治医や利用者様、ご家族様との間を取り繋ぐことにより、苦痛や不安な看取りではなく、安心できるような看取りを実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

利用者の誕生日には、それぞれの希望に沿った支援に取り組んでいる。「墓参り」の希望を支援した際には、姉妹のお宅も訪問でき、本人は、久しぶりに姉妹に会えて満足されたようだ。発語が少なくなり、コミュニケーションが取りにくくなった利用者については、家族来訪時に、職員が仲に入り、普段の様子や話した言葉を伝えたり、家族から本人の若い頃の話を聞く等して、家族との関係が続けられるよう支援している。家族会は年2回、行事と併せて行っており、家族同士で話すことで不安解消につながったような家族もある。一人ずつ浴槽のお湯を入れ替えて、気持ちよく入浴できるように支援している。またぎの不安のある方には、浴槽と同じ高さの座面回転式のシャワーチェアを使用して浴槽に入れるように支援している。午前10時～午後4時までが入浴の時間となっており、職員が声をかけながら支援している。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容を P R!!!

- サービス向上への3ステップ -
“ 愛媛県地域密着型サービス評価 ”

事業所名 グループホームやまと

(ユニット名) ふれあい広場

記入者(管理者)
氏名 松栄 優嘉利

評価完了日 H28 年 9 月 5 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「明るく、楽しく、穏やかに」の理念を忘れず職員一人一人が意識し実践に繋がるよう努めている。利用者さん、職員とを交えて明るく笑いも多い。また利用者さん一人一人がゆったりと穏やかに過ごしていただけるよう努めている。	
			(外部評価) 日頃は、理念共有の取り組みはあまり行っていないが、今回、自己評価に取り組む際、管理者は職員に、「理念を知っているか」「理念をどのように捉えているか」を確認して、利用者にゆったりと穏やかに過ごしてもらえよう、音、照明、配置等に気を付けるよう話をした。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 「歌声喫茶」「相談員来所」「地域の行事への参加」「ボランティア活動の受け入れ」「保育園、小学校との交流」「移動販売の利用」等色々な方面からの交流を行なうことで地域の方との交流を図っている。	
			(外部評価) 2ヶ月に1度、事業所で催す「歌声喫茶」に、地域サロンの方の協力がある。又、地域サロンに参加して地域の方達と一緒に体操等を行っている。地域行事の参加時には、地域の方に車いすの移動の手助けをしてもらうような場面もある。管理者は今後、地域交流を助けられるように、地域の会合にも出席していきたいと話していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 「歌声喫茶」「相談員来所」など利用者さんと一緒に過ごす時間を定期的に、もうけることで認知症の方への理解や支援方法などの理解を得られるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 年間行事計画に基づき、2か月に一度開催されている。公民館長さん、民生委員さん、ご近所の方に参加して頂き地域行事へ参加しやすいよう配慮して頂いたり情報を頂いている。またアドバイスを頂いた時などは次回参加されるときに活かせるよう話し合いにて改善に努めている。</p> <p>(外部評価) 会議は、偶数月の25日に開催している。家族には、今年度から、ユニットごとに1名ずつ代表者を決めて参加してもらっている。他グループホームの職員も参加しており、情報交換の場になっている。会議をスタッフルームで行うため、4月の会議時には、メンバーの方にホーム内を見学してもらっている。今後は、新たな地域メンバーを増やしたいと話していた。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加して頂いているので定期的に話や相談することが出来る。また市内GH連絡協議会に参加し、市の高齢福祉課の方が事務局となり協力して頂いている。</p> <p>(外部評価) 市の担当者からのアドバイスをもとに、運営推進会議時に、事故・ヒヤリハット報告を行っている。又、時には、介護計画の内容についてアドバイスがある。3ヶ月ごとの市主催のグループホーム連絡会に参加して、他事業所と勉強したり意見や情報交換を行ったりしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 日中は玄関、居室の窓等の施錠は行なわず対応している。また研修や事業所内の勉強会を行なうことで職員一人一人拘束に関して正しく理解し身体拘束を行なわないケアを実践できている。</p> <p>(外部評価) ベッド柵の必要時には、「拘束にならないか」「どの位置に使用するか」等について、職員間で「自分だったらどうか」と考えながら検討している。ひとりで出かける利用者には、職員がそっと付き添い支援している。夜間、2名の利用者が同時時間帯に出かけて行ったようなことがあり、警察の方からのアドバイスもあって、現在、夜間のみ、玄関や窓に、ナンバー鍵をかけている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修や事業所内勉強会にて「肉体的だけではなく言葉での虐待もある」ことなど等、学んだ知識や情報を職員が共有しあったり日々のケアの中で職員がお互いに見過ごさないよう気を付けるよう徹底している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在は活用できていないが今後研修会などの参加にて知識を得ていつでも取り組めるよう準備を行なっていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 主に管理者にて行われているが契約前に施設見学をして頂いたり施設活動などの説明を行ない理解して頂いたうえで入居の意向を決めて頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時などに主任が主となり家族さんに意見や要望などを聞き取りカンファレンスなどで改善点について話し合いサービス向上に努めている。また意見箱を玄関に設置し自由に意見を頂けるようにしている。 (外部評価) 毎月ユニットごとに便りを発行しており、家族には、毎月の送付書類に同封している。家族来訪時には、利用者の歩行状態や暮らしの様子を見てもらいながら、普段の様子を報告している。家族会は年2回、行事と併せて行っており、家族同士で話すことで不安解消につながったような家族もある。お正月やお盆等、家族に外泊の有無を聞くようにしている。	家族が知りたい情報を提供できるように、家族の立場に立って取り組みの工夫を重ねてほしい。又、運営推進会議の内容や事業所が特に力を入れて取り組んでいること、職員の紹介やケアの事例等についても報告を工夫してはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 業務カンファレンスにて意見を述べる機会を設けている。カンファレンス以外でも職員から出た意見等は主任や管理者から代表者に伝え反映している。	
			(外部評価) 昨年末から外部研修受講は勤務扱いとなり、職員は、興味のある研修を受講したり、管理者から個別に声をかけて受講を促したりして、職員個々が勉強する機会を持てるように取り組んでいる。管理者は、職員の表情をみて声をかけ、悩みの相談に乗ることもある。状態によっては、少し休暇を取ってリフレッシュしてもらうようなこともある。子どもを連れて出勤する職員があり、利用者の発語や活動量、笑顔が増えるという効果が出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 働きやすい職場となるよう職員の意見を反映し、就労内容や賃金のベースアップを明確にするよう改善に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 個々の能力を把握した上で研修の参加を促したり、日常的にも主任をメインにケアの質が向上するよう個別指導を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 外部研修や施設見学、市内のグループホーム連絡会などの情報交換ができる場に参加する機会を設けサービスの向上に努めている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の事前調査やアセスメント時に出来るだけ沢山の本人の思いや家族の思いを聞き取りしておき入所後はケアマネと担当職員を中心として焦ることなく一日一日状態の変化や本人さんの要望などを傾聴し安心して生活できるよう関係づくりに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ホームでの暮らしについて十分に説明を行ない、利用者さん、家族の方の不安や要望等、話をしっかりと聴きケアマネ・担当職員を中心とし家族との関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前のアセスメント、在宅時のケアマネからの情報提供等からケアカンファレンスを開き職員同士の情報共有にて柔軟に対応できている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の方の、これまでの生活歴や価値観などを理解し利用者さん一人一人の尊厳を忘れることなく暮らしを共にし寄り添えるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時に季節の節目には外出や外泊を相談したり月に1度の支払日は振込ではなく入金しに来ていただき面会をして頂くことでゆっくりと家族さんとの時間を作っていただけるよう勤めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知人等の面会時には居室にて、ゆっくりと過ごしていただけるよう努め、現在の利用者さんの状況や様子を理解していただけるよう職員が仲介に入ることで関係性が長く続くよう支援している。 (外部評価) 誕生日には、それぞれの希望に沿った支援に取り組んでいる。「墓参り」の希望を支援した際には、姉妹のお宅も訪問でき、本人は、久しぶりに姉妹に会えて満足されたようだ。発語が少なくなり、コミュニケーションが取りにくくなった利用者については、家族来訪時に、職員が仲に入り、普段の様子や話した言葉を伝えたり、家族から本人の若い頃のことを聞く等して、家族との関係が続けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 状況や必要に応じ席や日中の過ごす場所等、個々の性格や関わりなどにて配慮を行なっている。また利用者さん同士の性格等に応じては職員が仲介に入ることで孤立しないよう勤めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ケアマネを中心に入院、退去の場合にも必要に応じて家族の相談に対応したり節目には家族さんに連絡を取らせて頂き他施設に入所された方には面会に行かせて頂いている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 意思疎通できる方に関しては個々の意思を尊重を大事にしている。また意思表示ができない方に関してはケアカンファレンス等で情報を得て、その人らしさが主張できるよう、笑顔で生活できるようみんなで話し合うことにより努めている。 (外部評価) 行きたいところがあるが、遠慮がみられるような利用者には、「前に〇〇に行きたいと言ってましたね」と職員から話題にして出かけられるよう促して支援している。利用者の以前の職業や得意なことを把握して、生活の中で行えるように支援している。「娘の近くに住みたい」と希望する利用者には、まず、持病が悪化しないように運動したり食事の調整等ができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前後の聞き取りを利用者さんや家族さんに、しっかりと聞いておく。その後、家族さんとの関わりで新しい情報が入手できた際にはアセスメントやカンファレンスを活用し職員全員が情報の共有が出来るよう努めている。生活環境に関しては新しいものを購入していただくのではなく本人さんが今まで使用していた馴染みのものを持参していただくことで今までの生活と少しでも違和感が無いよう努めている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 活動表や、介護記録などにて日々の状況に努めている他、その日の体調や気分に応じ無理のないよう関わりに気をつけたり、ゆっくりと休んで頂く等気をつけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価)</p> <p>ケアカンファレンス等を行なう前に利用者さんは勿論のこと家族さんの意向などを聞き取った上で3ヶ月に1度のケアカンファレンス、6ヶ月に1度のアセスメントを活用し職員同士が話し合いを行ない常に「その人らしさ」「残存能力」を念頭に置き現状や意向に合わせたケアの計画が出来るよう職員が話し合いを行った上で介護計画に反映させている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>本人や家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させている。6ヶ月に1度アセスメントを行っており、前回から変更部分があれば赤字にして変化を分かりやすくしている。日々の記録は、利用者の言葉や様子を記録して、意向を計画に採り入れることもある。利用者の担当職員がモニタリングを行い、ケアカンファレンスで他職員の意見を聞き、計画を見直している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>画一的な物にならないよう日々の活動表や介護記録、排便管理表を記入したものを朝夕の申し送りで職員同士が情報を共有している。またその際に出てきた問題点などはケアカンファレンスなどを活用し介護計画の見直しの材料の一つとし見直しするようにしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の方は勿論のこと家族の方の介護力の変化などにも視点を置くことで「ありきたりなサービス内容」にならないよう現状に応じたサービスの提供が行えるよう努めている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>地域の行事、ボランティアの活用、移動販売、近隣の方の力をお借りしての避難訓練等での参加などにより利用者さんの力の発揮や安全や豊かさを引き出せるよう努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			入所時の際に主治医について話をしており利用者さんや家族さんの希望を尊重し、その希望に沿った対応を行なうことで適切な治療を受けられるよう努めている。	(外部評価)
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			ケアマネを通し日々の生活状況や往診前には事前に情報提供を行ったりすることで医師や看護師に個々の健康管理の相談や適切な受診、往診を受けられている。	(外部評価)
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	
			ケアマネを通し入退院時の調整など細かく医師、看護師、ソーシャルワーカー、ケアワーカー連絡を密に取り合い入院や退院時も病院に出向き状況把握に努めている。	(外部評価)
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			ケアマネを中心とし入居時に大まかな希望は聞き取っている。その後は都度、本人さんや家族さんの意向を確認し話し合いを進めている。また職員間でも都度、細かい情報共有は行なっている	(外部評価)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 「異変時のマニュアル」の活用や消防士、救命救急士による応急手当、急変時の対応、AEDの活用の手順など年2回、指導を頂いたり外部研修に参加することで身につけていけるよう努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練を通して色々なパターンでの訓練を行ったり自治防災の呼びかけから地域全体の避難訓練への参加を行なうことで意識向上に努めている。 (外部評価) 年2回、消防署の立会いのもと避難訓練を行っている。火災や地震を想定して、日中、夜間の両方を経験できるよう取り組んでいる。2階から滑り台で避難する訓練を職員・利用者ともに体験し、課題点を明らかにしていた。民生委員にも参加協力を得ており、避難した利用者の見守りを願った。地域の防災訓練にも利用者と一緒に参加している。	利用者の状態や窓をロックしている状態も踏まえて、避難経路について話し合い、避難訓練を重ねてほしい。又、いざという時には近所の方が協力してくれるようになっているが、協力をスムーズに行ってもらえるように、事業所や利用者のことを知ってもらうような取り組みをすすめてほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に「尊重、尊厳」を意識した上で声かけや会話などの言葉使いに気をつけている。プライベートでの話合うようなことがあれば居室で話している。 (外部評価) 管理者は、「命令口調にならないように」「過剰介護はしないように」と職員に話している。又、「利用者を支援するときには、自分の家族だったらどうするかと思いながら支援するように」と話している。異性が苦手な方には、同性介助で支援している。目の不自由な利用者には、いきなり声をかけないことに気を付けており、外出時には景色等を詳しく伝え、楽しめるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者さんによっては自分の思いを言葉にされない方もいらっしゃるので普段からの会話等にて利用者さんとの信頼関係を築きながら思いを引き出し自己決定出来るよう努めている。その際には選択肢を多く提示したり、言葉で表現しにくい方でも表情などから汲み取り自己決定に繋がるように働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事や入浴時間は概ね決まっているが本人の意思に沿って支援している。個々の体調や、気分に応じた時間を過ごせるよう支援している。(医療的指示、危険行為以外)	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 日々着替えを行って頂いている。外出時には、利用者さんの持ち込みの衣類の中から、その人らしさが出るような、おしゃれな服装にするよう支援している。家族さんから希望があれば定期的にホーム内での散髪等も行なっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立を立てる際、順番に好みのものが提供できるよう支援している。また季節の物を取り入れることで話題ができ、食に関する関心を引き出している。食材きりや、盛り付け、片付けなどを行なうことにより残存能力を引き出すよう支援している。 (外部評価) 週5回、業者から献立に沿った食材が届き調理している。週2回は、利用者の希望を採り入れ献立を立て食事を作っている。朝食は、利用者の希望に沿って、パン食にすることもある。きざみやとろみを付けて配膳する場合は、主食おかずをそれぞれの器に別けて盛り付け、声掛けしながら介助をしている。外出に出かけるときには、トロミ剤や、キッチンバサミを持参している。店の許可を得て、ミキサーを持参することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 日々の記録により個々の摂取量がすぐに分かるようにしている。個水分摂取量の目安として個々の必要な1日の水分を計算により出していたり食事形態は咀嚼、嚥下に応じて個々に刻みやミキサー、とろみ使用など支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後は行えていないが朝夕と利用者さんの口腔内の状態に応じて支援している。義歯は夕には外して頂き毎日洗浄剤にて手入れを行なっている。自立で出来ない利用者さんには口腔ウェットを使用し衛生保持に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄管理表や活動表を活用し個々のトイレ間隔の時間や排便の有無にてトイレ誘導や声掛けを行なうことでトイレでの排泄が行えるよう努めている。	
			(外部評価) トイレは、両サイドに手すり、前面には跳ね上げ式の前方ボードを設置し、前傾姿勢が取りやすいようにしている。排泄の間隔が長くなっている利用者には、声をかけて促している。又、身ぶり手ぶりで確認したり、少し場所を移動してもらってから声かけする等、工夫して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取をしっかりと行って頂き、個々に応じては牛乳やヨーグルト、ヤクルトなどの取り入れを行なっている。トイレ誘導時には必ず腹部マッサージを行ない腸に刺激を与えるよう支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日や時間帯は決めていないが安全確保のため入浴時間は出来るだけ3人体制時に行なっている。午前や午後、時間などを利用者さんに希望を聞いている。入浴場は個々の自立度に合わせ浴槽台や滑り止めマットを使用し安全に入浴がゆっくりに行えるよう支援している。	
			(外部評価) 一人ずつ浴槽のお湯を入れ替えて、気持ちよく入浴できるように支援している。またぎの不安のある方には、浴槽と同じ高さの座面回転式のシャワーチェアを使用して浴槽に入れるように支援している。午前10時～午後4時までが入浴の時間となっており、職員が声をかけながら支援している。長風呂を好む方には体への負担を考慮して、砂時計を使って本人が納得のいくよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は、その日の利用者さんの意向や体調に応じてソファー、和室、居室にて休んで頂いている。夜間の安眠としては気持ちよく休んでいただけるよう布団干しやリネンを定期的に行なっている。夜間、眠れない方に対しては電気の調整や会話をすることにより安心して休んで頂けるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々にお薬手帳を作っており保管することで、いつでも確認できるようにしている。またカルテにも差し込んでおり職員が情報共有できるようにしている。変更等があった場合でも情報を共有し観察や記録を医師に報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 移動販売での買い物や外出しての買い物等や、家事作業の役割を持っていただいたりと張り合いが持てるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の天候や気温によって左右されることが多いが利用者さんの希望を考慮し散歩やドライブに出られるよう努めている。困難な場合には家族さんに協力を得て行っている。	
			(外部評価) 数名で散歩できるように支援している。時には、散歩途中に小学校のベンチでひと休みしたり、神社にお参りしたりしている。外出を好まない利用者には、誘い方を工夫している。1階ユニットは、利用者と芋炊きを手作りして、近くの公園で食事したことがある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 管理上難しい為、基本的に持ち込みは禁止となっている。しかし買い物をする楽しみは支援したいため、個々の自立度にはよるが買い物に出かけた際には、施設で準備したお金を使い支払いを行ってもらえるよう努めている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者さんが話をしたいと言われる時には電話をかけたり家族さんからの電話などは取り次ぐことで安心してもらえるよう支援している。手紙は文字を書く事が難しいため困難に近い状態である。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) フロアについては季節の花などを画用紙などで作ったものを貼り付けたり、カーテンを開け山々を見て頂くことで季節の流れを感じていただけるようにしている。音については不穏要素の一つでもあるのでテレビなどの音の大きさなどには気をつけている。毎日清掃することで清潔さを保っている。	
			(外部評価) 2階ユニットでは、季節の花を紙で作って飾っている。職員が居間の掃除をしていると利用者が「手伝おうか」と声を掛けてくれることがあり、掃除機をかけたり、モップかけ等、できることをお願いして一緒に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 個々の希望に合わせてテーブル席、ソファ、和室など好きな所でゆっくりできるよう支援している。	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室については今まで自宅にて使用されてきた物を持ち込んでいただくようにして頂くことで少しでも安心して落ち着き過ごしていただけるようにしている。	
			(外部評価) 家族の来訪時に撮った写真を飾っている。夜間使用するポータブルトイレは、日中は別の場所に保管している。気管の弱い方は、加湿清浄機を使用している。夏には窓にすだれをかけている。各個室に温・湿度計を設置している。1階ユニットには、押入れが無いので、家族が季節に合わせて衣替えをしている。居室の掃除は職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 「出来ること・出来ないこと」「得意なこと・不得意なこと」などを日々のケアより見極めカンファレンス等で話し合いアイデアを出し合い個々の残存能力引き出すことで自立した生活が送れるよう努めている。	
			(外部評価)	